

元・校長先生の

# 教育ウォッチ



## 新聞週間に思う、ネット時代 だからこそ新聞を読もう

ネットニュース全盛時代ですが、10月の新聞週間に向けて、新聞の持つ力やメリットを公立・私立の高校校長を歴任した竹内弘明さんが解説してくれました。

**竹内弘明** (たけうち ひろあき)  
1955年兵庫県生まれ。公立中学校・県立高校教諭、県教育委員会、教育次長、県立神戸高校長、親和中学・女子高校長を経て、神戸親和大学教授。在職中は学級通信や次長・校長だよりなどを発行

10月15日(火)から1週間は新聞週間です。

日本新聞協会によれば、新聞の発行部数は2000年には一般紙とスポーツ紙を合わせて約5370万部あったものが2023年には約2860万部に減っています。1世帯あたりの部数も2000年には1.13部あったものが2023年には0.49部まで減ってきています。この背景にはインターネットニュースがあります。確かにインターネットは新聞よりも早くニュースを知ることができます。事件や事故が起これば、記者がかけつける前に、その場に居合わせた人がネットに投稿する時代です。早さで言えばその場にいた一般の人が投稿する方が早いとは思いますが、そのようなニュースは事件・事故の1つの側面を投稿しているだけで全体像はわかりません。また、フェイクニュースの危険性もあります。

ニュースは真実性が大切です。報道には責任もありますし、報道倫理もあります。報道することで人を傷つけたり、不幸にしないように配慮もします。そして、報道各社は人間性や社会性、記録性、地域性などニュースとしての価値判断をした上で記事にしています。新聞、ラジオ、雑誌、テレビ、そしてインターネット。それぞれのメディアにはそれぞれの長所短所があるのです。

### 多彩な情報から興味を引き出せる

新聞は紙媒体として手元に残ることと、読まなくてもよいさまざまな記事があるのが良いとも言われています。政治・経済、芸術・文化・スポーツと多彩な記事から、目を引く見出しに思わず読んでしまうのです。フィルターバブルという言葉がありますが、ネットでは検索履歴やクリック履歴に基づいて、興味関心のある情報が優先的に表示され、興味関心のない情報は見えにくくなります。まるで泡(バブル)の中に包まれたように、自分の興味関心のある情報、自分の得たい情報しか見えなくなるというわけです。

また、新聞を読むことで読解力が身につくとも言われています。

全国学力学習状況調査では、「新聞などのニュースに関心のある子どもは正答率が高い」という結果も出ています。また、NIE (Newspaper in Education 教育に新聞を) という取り組みもあり、多くの学校が新聞を教育に活用しています。このことはいずれまた紹介したいと思います。まずは高校生諸君も、新聞週間を機に、新聞を読んでみませんか。

Webはコチラ▶

<https://mrs.living.jp/hyogo/tag/kyoiku>

